



令和5年度 伝統文化親子教室事業

～大滝ダム竣工10周年記念事業～

# やまぶきホール狂言特別公演

狂言『川上』が繋いだ奇跡の公演

狂言

# 川上

野村万作  
野村萬斎



## 2023年8月22日[火]

17:00開演[16:00開場]

### 川上総合センターやまぶきホール

料金-----3000円[全席自由席]

お問い合わせ-----川上村教育委員会 TEL 0746-52-0144

撮影：政川慎治

特別協力：万作の会

共催：川上村・川上村教育委員会

# 狂言『川上』が故郷に!

川上村で狂言「川上」を上演するのは、史上初めてのことになりました。「川上」は江戸時代初期にはできていた古い狂言で、川上村神之谷の金剛寺にある「川上地蔵」が願いをたちまちに叶えてくれるという信仰が元になっています。金剛寺に保管されている川上地蔵(正式名称「木造地蔵菩薩立像」)は「投げ地蔵」とも呼ばれ、その昔、役行者が大峰山で一つの地蔵を彫りました。しかし、役行者は彫り終わった地蔵を見て「この地蔵は顔が優しすぎる。これでは駄目だ」と言い、投げ捨ててしまいました。これが投げ地蔵と呼ばれる由来だと言われています。投げ捨てられた地蔵が着地した場所が、皆様ご存知の金剛寺です。地元住民はとてもありがたく感じ、大切に祀りしてきました。今回縁が繋がって、その「川上地蔵」に由来する狂言「川上」を野村万作師、萬齋師をお招きし、上演する運びとなりました。この機会にご鑑賞頂き、改めて古の時代からのつながりに思いを馳せて頂ければと存じます。

## 演目

### 川上地蔵のお話

解説 高野和憲

### 附子

主 太郎冠者 野村裕基  
次郎冠者 飯田 豪  
後見 次郎冠者 中村修一  
高野和憲

### 川上

盲目の夫 野村万作  
妻 野村萬齋  
後見 内藤 連

## あらすじ

### 附子 子

主人が太郎冠者と次郎冠者に留守番を言いつけ、「この桶の中には附子という猛毒が入ってある。決して近づかぬよう」と言い残し出かける。附子が気になって仕方がない二人は、こわごわ桶の様子を探る。気になる中身の正体は・・・。

### 川上 かわかみ

吉野の里に住む盲目の夫が霊験あらたかという川上の地蔵に参詣する。参籠の甲斐あり早速目が開くが、地蔵のお告げには「連れ添う妻が悪縁ゆえ離別せよ」という条件があった。それを聞いた妻は腹を立て、地蔵をののしり、絶対に別れないと言いつける。そこで・・・。

## プロフィール

### 野村万作

のむら まんさく

一九二二年生。重要無形文化財総合指定保持者人間国宝、文化功労者、日本芸術院会員。祖父・故初世野村萬齋及ひ父・故大世野村万福に師事。早稲田大学文学部卒業。一万作の会・主宰。軽妙洒脱かつ緻密な表現のなかに深い情感を伝える。品格ある芸は、狂言の一つの頂点を築き上げてくられる。国内外で狂言普及に貢献。ハワイ・大・ワシントン大には言語教授を務める。狂言の技術の種が尽くされる影曲「約狐」に長年取り組み、その演技を芸術学大会発表し、紀伊國屋演劇賞日本芸術院賞、松尾芸能賞、紫綬褒章、朝日賞、旭日小線堂等多数の受賞歴を持つ。

### 野村萬齋

のむら まんさい

一九六六年生。祖父・故六世野村万福及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。東京藝術大学音楽部卒業。「狂言でござる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加。普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。各分野で非凡さを発揮し、狂言の認知度向上に大きく貢献。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通して狂言の在り方を問うている。芸術祭新人賞、優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾芸能賞大賞等受賞多数。

## <<<<<<<<特別公演概要>>>>>>>>

日程：2023年8月22日(火)  
開場：16:00 開演：17:00  
料金：3000円[全席自由] ※未就学児入場不可  
定員：300人  
会場：川上総合センターやまぶきホール

(奈良県吉野郡川上村大字迫 1374-2)



←会場までのアクセスはこちらから

本公演は事前申込が必要です  
↓ 申込は二次元コードから ↓



川上村教育委員会